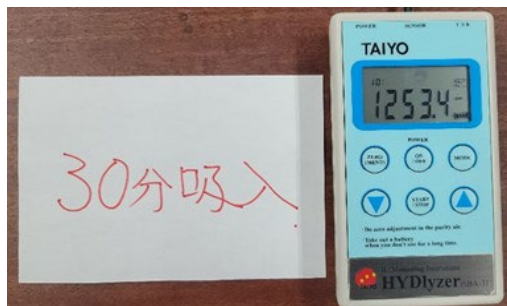


アリビオ使用時の呼気水素ガス濃度試験(ppm) \* ppm=1/100万

吸入時間	呼気水素ガス濃度ppm
使用前	9.9
5分吸入	265.7
10分吸入	874.8
15分吸入	740.9
30分吸入	1,253.4
30分吸入後10分経過時	36.1
30分吸入後90分経過時	25.0

測定器：HYDlyzer mBA-31（株式会社タイヨウ）

被験者：女性39才



## アリビオ使用における呼気水素濃度テストについての解説

腸の中で水素ガスが作られ、それに伴って我々の呼気の中に水素ガスが含まれているのはよく知られている事実であります。

今回、別紙にアリビオを使用した場合の呼気水素濃度の検証結果を表するが、それについて解説します。

使用条件は

- 1:アリビオ使用前の呼気水素濃度
- 2:アリビオにて水素ガス 5 分吸入後の呼気水素濃度
- 3:アリビオにて水素ガス 10 分吸入後の呼気水素濃度
- 4:アリビオにて水素ガス 15 分吸入後の呼気水素濃度
- 5:アリビオにて水素ガス 30 分吸入後の呼気水素濃度
- 6:アリビオにて水素ガス 30 分吸入後 10 分経過時の呼気水素濃度
- 7:アリビオにて水素ガス 30 分吸入後 90 分経過時の呼気水素濃度

結果は別紙にて表及び写真にて表記しています。

結論:

被験者通常呼気の中に 9.9ppm の水素ガスが検知され、量の多少は個人差があるものの、人体において腸の中で作られた水素ガスが呼気にて排出されているのが認められます。

その後、アリビオから発生される水素ガスを吸入後、5・10・15・30 分、そして吸入後 10・90 分経過時の呼気水素濃度を測定しましたが、5 分後 265.7ppm、10 分後 874.8ppm、15 分後 740.9ppm、30 分後 1,253.4ppm の水素が検出され、吸入された水素ガスは肺の中で血液に吸収はされるものの、以外と多くの水素ガスが吸収されず残っているという事が顕現されました。

また、30 分吸入後 10 分経過時 36.1ppm、90 分経過時 25ppm 呼気からの水素が検出されており、水素が体内を巡り肺から排出されていることが認められますが、思いのほか長く体内に保持されていると事が立証されました。

ここで分かることは、アリビオの低発生量水素ガスを吸入しても 5 分後には肺にて体内に吸収しきれず、肺に滞留し呼気になって排出されている事から、巷にあるような毎分 100ml や 200ml の水素ガスを出す高価な発生器は明らかにオーバースペックであり、アリビオ程度の低発生量の水素ガス発生器で十分人体機能に合致するレベルであると改めて確信しました。

(株)トラストレックス

代表取締役社長 西村 純一

2023/12/8 記